

第31回神戸電鉄粟生線活性化協議会 会議録

〔日 時：平成29年4月13日（木）10：00～11：30
〔場 所：三木市役所 5階 大会議室

1 開 会

（事務局）

皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから第31回神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催いたします。私は、協議会の事務局を務めております三木市まちづくり部長の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は早朝より三木へお越しいただきまして、ちょっと遠いかたにつきましては大変だったんじゃないかと思いますが、お集まりいただき感謝いたしております。

それでは、進行は座ってさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、年度も改まっております。人事異動に伴いまして、委員あるいはオブザーバーのかたがたが一部交代されておりますので、まずはそこを御紹介したいと思います。

まず、兵庫県県土整備部県土企画局長が新たに〇〇様と交代されております。

（〇〇委員）

〇〇です。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

続きまして、小野市副市長の〇〇様に交代されております。

（〇〇委員）

〇〇です。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

続きまして、神戸市建設局道路部計画課長が〇〇様に交代されておりますが、本日は御欠席と聞いております。

続きまして、兵庫県立三木東高等学校の〇〇様でございます。本日は代理としまして、〇〇校長先生に御出席を賜っております。

(〇〇委員代理)

校長の〇〇と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

続きまして、兵庫県立小野高等学校の教諭で〇〇様、本日は御欠席と聞いております。

続きまして、オブザーバーでございます。

国土交通省近畿運輸局鉄道部計画課長が〇〇様に交代されております。

(〇〇オブザーバー)

〇〇です。よろしくお願ひします。

(事務局)

続きまして、兵庫県神戸県民センター県民交流室長が〇〇様に交代されておりますが、本日は御欠席と聞いております。

続きまして、本日の委員の出欠について御報告いたします。本日は、25名中18名の出席となっております。本会議が成立したことをここに御報告申し上げます。

なお、本日、会長の藪本三木市長につきましては、体調不良のため御欠席させていただきます。早朝よりお集まりいただきました皆様にはまことに申し訳ございませんが、御理解いただきたいと思いますと考えております。

続きまして、本協議会におきましては、副会長を定めておりません。この際、藪本会長より、協議会規約第5条第3項で、副会長及び監事は、別表1に掲げる委員のうちから会長が指名するとなっておりますので、この規定に基づきまして、小野市副市長の〇〇様を副会長に指名したく御賛同を賜りたいと考えているということでございます。したがいまして、このように取り扱いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(事務局)

ありがとうございます。それでは〇〇様、よろしくお願ひいたします。

ここで、本日は会長不在となっております。協議会規約第6条第2項に、会長に事故あるときは、副会長が会長の職務を代理するとありますので、本日の協議会については、〇〇副市長に会長代理をお願いいたします。席の移動を

お願いいたします。

それでは〇〇副会長、よろしくお願いいたします。御挨拶を一言お願いいたします。

(副会長)

皆さん、本日は御苦労さまでございます。私、ただいま御紹介いただきました小野市の副市長の〇〇と申します。

今日は藪本市長が40度の熱が出ており、昨日から体調不良という御連絡がありまして、私が代わりに議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

振り返りましたら、私はちょうどこの神戸電鉄粟生線活性化協議会が発足しました時に委員として、また、活性化協議会の初代の会長として3年ほど委員を務めておりまして、4年ぶりにこの場へ帰ってまいりました。この会からいろんな御意見が出まして、いろんな施策が展開されて、神戸電鉄粟生線の存続に向けての一つのパワーとして燃えているということに、委員は退いておりましたが、小野市の方向性については意見も言うておりましたし、注視していたところでございます。今回、形成計画が策定されたことにつきましても非常にうれしく思っているところでございます。これからいろいろと御意見をいただきまして、この活性化協議会がますます活性化が図れるように、どうぞよろしくお願いいたしたいと思っております。

(事務局)

それでは、ここから会議の進行につきましては、協議会規約第8条第3項の規定に基づきまして、〇〇副会長にお願いいたします。

2 報告事項

「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の策定について

(副会長)

それでは、会議次第に沿って進行させていただきます。

まず、報告事項、「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の策定について、事務局から報告をお願いいたします。

(事務局)

失礼いたします。事務局を預かっております三木市で交通政策課の課長をしております〇〇と申します。年度も改まりまして、また精いっぱい取り組んでまいりますので、本年度1年間、どうかよろしく願いいたしたいと思っております。

以下、着座の上、失礼いたします。

それでは、お手元の資料のうち報告事項でございます。形成計画の策定についてということで、お手元の資料のうち形成計画の概要版、それからその下に続きます計画の冊子、それからその次ですが、A4で一枚物の形成計画の意見募集（パブリックコメント）の結果について、それからそれに続きます15ページにわたるパブコメの意見並びに沿線3市の考え方をまとめたペーパーなどを中心に御報告させていただきたいと思えます。

まず、お手元の資料はよろしいでしょうか。

これまで協議会におきましては、網形成計画の策定協議などをお願いしまして、また先月、3月中には市民意見公募、いわゆるパブリックコメントを実施してまいりました。それを受けまして、粟生線沿線3市であります神戸市、三木市、そして小野市の沿線3市におきましては、網形成計画を策定させていただくという流れになっております。

この計画につきましては、今月中になりますけれども、国へ提出させていただく予定でありますことを御報告させていただきます。

それでは、前回2月の協議会以降、意見を賜った内容、計画へ反映したところにつきまして、簡単にですが、御説明させていただきたいと思っております。

計画冊子の58ページをお願いいたしたいと思えます。

先の協議会におきまして、観光入込客数につきましては数値目標ということで、協議会から沿線3市が達成状況を評価していく、そういった数値目標を掲げていたところですが、委員の皆様からは、観光入込客数を計画の実利用者数の人数に取り込めないのかといった御意見、あるいは訪日外国人のいわゆるインバウンドなどの増加といった要素についても取り込むことができないかといった御意見を賜ったところでございます。その後、書きぶり等につきましては、会長、事務局に一任を賜ったわけですが、それらの意見を踏

まえた変更点といたしまして御報告させていただきますと、58ページの欄外注記にあります米印の4番でございます。

実利用者数につきましては、「方針2①及び②による取組効果を含む」ということで最終的に整理させていただきました。今後5年間におきまして、粟生線沿線地域につきましては、実利用者数850万人を目標に取り組んでいくところでございますけれども、これらの中には、観光に力を入れた結果による利用者の増加なども当然含まれるわけでございます。それらの仕分け、そのあたりがなかなか難しいような状況もございますけれども、欄外に書かせていただきました観光入込客数、そうした取組効果を含むということで意思表示をさせていただくことで、ここにつきましては整理させていただいたところですので、御確認をお願いいたしたいと思っております。

協議会の意見を踏まえまして加筆した箇所については、以上になります。

それから、お手元の資料に戻っていただきまして、パブリックコメントの結果についてというところ、A4の一枚物になりますが、そちらについて報告させていただきたいと考えております。

このたび、冒頭にも申し上げましたが、先月、3月1日から30日までの30日間の期間におきまして、意見募集を行ったところでございます。意見の応募者につきましては、沿線3市で8名から意見がございました。意見の件数といたしましては、56件という内容になっております。

そのペーパーの4のところです。沿線3市の内訳ということで、参考までに記載させていただいております。神戸市については3人、三木市については5人ということで、傾向といたしましては、件数自体は多いのですが、1人当たりの件数が多くなっているといった状況でございます。なお、小野市につきましては、意見はございませんでした。

5のところに書いておりますが、意見の概要、それからいただいた意見に対する沿線3市の考え方ということで、後ほど説明させていただきます。

そのペーパーの6番につきましては、意見を考慮した結果、計画を修正した有無でございますけれども、いただきました御意見を精査いたしました。今回の計画に記載している内容、包括的には記載している内容に合致することもございます。細かな御意見等もございましたけれども、計画に書かれてある内容、

取り組んでまいる内容には沿っているのではないかということで、意見をいただいた上での計画の修正は行っておりません。

続きまして、沿線3市の考え方ということで、15ページにわたる意見を要約したものについての簡単な御紹介ということでさせていただきたいと思えます。

意見の件数が多いものですから、主だった意見の御紹介、それに対する沿線3市の考え方ということで、代表して事務局から御報告、御説明をさせていただきたいと思えます。

その表の一番左側に番号を振っております。その番号を申し上げてまいります。

まず、番号の2番と3番につきましては、計画の目標・理念及び基本方針に関する御意見でございました。これらの御意見といたしましては、公共交通への責任を神戸電鉄などの交通事業者だけに持たせるのではなくて、市民や地域など行政も含めて行うべきではないかといった御意見、それから交通の移動する権利などを認めるべきではないかといった御意見でございました。

これにつきましてはの考え方でございますけれども、その右にも書いておりますように、このたび計画といたしまして、目標・理念につきましては、そこに書いておりますような形で、「地域の公共交通を維持し、いつでも安心して快適に移動できる公共交通網を次世代に継承する」という考え方を示させていただいたところです。また、これらの計画の推進に当たりましては、地域、それから住民の皆様、企業、自治体、交通事業者、これらが一緒になって取り組むといった内容も記載させていただいたところでございます。

なお、この移動する権利、交通の権利などにつきましては、国の今後の動向なども踏まえまして、今後の計画の推進に当たっての参考とさせていただきたいと考えているところでございます。

それから、2ページ目に入りまして、番号で言いますと、5番、6番、7番といったところの御意見。これにつきましては、鉄道とバスとの競合関係についての御意見と理解いたしております。こちらにつきましても沿線3市といたしましては、このたびの計画におきまして、粟生線沿線地域が目指す将来の姿という形で、計画冊子で言いますと40ページになるのですけれども、イメー

ジ図でお示しさせていただいて、その中で粟生線を地域の基幹軸ということで、しっかりと捉えるのと併せて、バスでの駅アクセスを推進する地域を指定させていただいたところです。3市におきましては、この考え方に基づいて取り組んでまいりる予定としております。

それから、ページをめくっていただきまして、5ページになります。こちらにつきましては、神戸市あるいは三木市へ提出いただいた意見、内容を集約しますと、現在の粟生線の運行形態に対する御意見、便数等の確保についてということで、運行形態についての主な御意見と認識いたしております。これにつきましては、現在の公共交通の維持のためには、利用者の増加に向けた利用促進の取組を進めていくのはもちろんではございますけれども、利用状況によりましては、サービスの水準の見直しも検討せざるを得ない状況であるという現状を踏まえまして、計画に記載がございましており、必要に応じてダイヤ変更あるいは運行本数の見直しを検討していく必要があると考えているところでございます。

それから、次の6ページになりますが、番号で言いますと24番、こちらにつきましては、鉄道システムの変更の御提案でございまして。いわゆる分社化等の提案と理解しているのですけれども、こちらにつきましても既に計画として項目を挙げております。必要に応じて、将来の適正な運行形態につきましては随時検討を行っていくということで、いただいた御意見も参考にしながら今後検討を進めていきたいと考えているところです。

それから、ページをめくっていただきまして、9ページになります。番号で言いますと、35番の御意見ですけれども、こちらにつきましては、利用促進に対する御意見です。こちらにつきましても計画に記載いたしておりますが、今後におきましても引き続き地域住民の皆様を中心にモビリティ・マネジメント、「乗らないと残りません」というところでこれまで周知してきたこともありますが、やはりそういったことがベースに挙がってくるとは考えておりますので、今後につきましても、そうした取組を継続してまいりたいと考えています。いただきました御意見については参考とさせていただきたいと思っております。

10ページに移りまして、37番の御意見につきましては、地域の熱い思い

を大切にすべきだといった御意見だと思います。これにつきましては、御意見はごもっともでございます、栗生線の維持・存続につきましては、そうした熱い思いが最も重要なものであると我々も考えているところです。計画にも記載がございますけれども、地域のそうした主体的な取組をサポートする制度も設けておりますので、引き続き、サポートあるいはそうした思いに基づく取組を推進してまいりたいと考えているところでございます。

それから、ページをめくっていただきまして、12ページになります。番号で言いますと、44番、45番、46番、47番、48番になりますけれども、これにつきましては協議会、関係市、関係団体とのまとめり状況についての御意見でございます。併せて、活性化協議会の主導的役割を県が果たすことを明確にすべきではといった御意見を賜っておりますが、これにつきましては、栗生線の活性化協議会をベースにいたしまして、関係者が一丸となりまして、今後とも引き続き協議を行うよう、体制を整えているところです。

なお、兵庫県さんにおきましては、これまでも栗生線への支援等につきまして、中心的な役割で調整を担ってきていただいております。今後につきましても、主体的な参画を沿線3市とともに兵庫県さんにつきましては要請してまいりたいということで整理しております。

それから、13ページでございます。その中で、49番、50番といった御意見につきましては、栗生線の複線化、それから地下鉄の西神線の延伸といった御意見でございます。栗生線の複線化につきましては、神戸電鉄さんから聞いているところですが、現在の厳しい財政状況の中で、更に多額の資金を投入して複線を整備するといったことは困難な状況でございます。しかしながら、これまでに実施されてこられました工事によりまして、基本的な運行間隔の時分であります15分に1本という運行は実現できていることから、複線化工事が完了した場合と同等の速達性の効果が得られているという内容を神戸電鉄さんからは聞いているところでございます。

それから、地下鉄西神線の延伸といった御意見を賜っておりますが、現在、そうした延伸についての計画はございません。少子高齢化等で公共交通の利用者数が減少していく中においては、路線の新設ではなく、既存の公共交通ネットワークを維持していくことが重要と考えるところでございます。

それから、最後になりますけれども、14ページ、番号としましては52番です。計画の文面、あるいはその見やすさ等の御意見でございます。こちらにつきましては、たいへん貴重な御意見というふうに賜っております。今後、計画ができた初年度でもありますので、地域に入らせていただく際、計画ができた、計画に基づいて取組を進めていくことを十分に周知していく必要がございますけれども、概要版を作成するなどして、分かりやすく御理解いただくように、事務局としても、沿線3市としても努めてまいりたいと考えているところです。

以上、内容がたいへん多くございましたけれども、パブリックコメントでいただきました意見、それから沿線3市の考え方ということで、事務局から代表して御報告させていただきます。

以上でございます。

(副会長)

ありがとうございました。

それでは、「神戸電鉄栗生線地域公共交通網形成計画」の策定について、何か御意見はございませんか。

ないようでございますので、それでは、次の議事に入らせていただきたいと思います。

3 議 事

議事1号 平成29年度の協議会の取組方針及び重点事業（案）資料-1について

議事2号 平成29年度の協議会の歳入・歳出予算（案）資料-2について

(副会長)

議事1「平成29年度の協議会の取組方針及び重点事業（案）について」、議事2「平成29年度の協議会の歳入・歳出予算（案）について」、関連性がございましたので一括して提案したいと存じております。

それでは、事務局、説明をお願いいたします。

(事務局)

続けて失礼いたします。

それでは、まず右肩に資料-1と書いている資料を御用意いただきたいと思いますと存

じます。

議事1号といたしまして、平成29年度の協議会の取組方針及び重点事業(案)について、まとめさせていただいております。

まず、本年度の取組方針でございますが、さきほども申し上げましたとおり、形成計画を策定して最初の取組の初年度という非常に重要な年度となっております。このため、まずは計画の周知・PR、そして地域住民の皆様などへのモビリティ・マネジメントを推進してまいりたいと考えているところです。併せまして、計画の目標、理念及び基本方針に基づきまして、地域の住民の皆様、地元の企業、沿線自治体、交通事業者等の各関係者が主体となりまして、積極的な公共交通の維持・活性化に取り組んでまいるというところを書かせていただいております。

項目の2、重点事業に入らせていただきますが、大きく2つを考えました。

まず、1つ目といたしましては、形成計画の周知・PR及びモビリティ・マネジメントの推進でございます。こちらにつきましては、計画の初年度ということで関係者に入らせていただきまして、計画の積極的な周知・PRをまずは行ってまいりたいと。併せて、モビリティ・マネジメントを推進していくことによりまして、公共交通利用の意識を高めていただきますとともに、地域公共交通の活性化及び利用促進を図ってまいりたいと考えているしだいでございます。

それから、2つ目といたしましては、形成計画の推進であります。新たに計画ができましたので、それに基づいて計画を推進していく必要があります。その中におきましても、やはり地域の基軸であります神鉄栗生線の利用促進策については、引き続き、積極的に取り組んでまいりたいと考えているところです。

大きく項目としては、その中でも3つ考えておりまして、まず「ア」といたしましては、鉄道とバスの広域時刻表の作成であります。平成29年度におきましては、国庫補助金を活用いたしまして、まずは鉄道とバスの広域時刻表を作成し、乗継情報、接続情報を積極的に発信することによりまして、乗継ぎの利便性を向上してまいりたいと考えております。

続きまして、「イ」といたしましては、車両更新等の重点的な推進であります。こちらにつきましても、前回の協議会で御報告させていただきましたけれ

ども、平成29年度以降につきましては、国庫補助金の活用を前提といたしまして、県、それから沿線市が協調して車両更新等を支援してまいりたい。当協議会におきましても、車両更新等の重点的な推進を後押ししてまいりたいということで、整理させていただいたところです。

それから、3つ目の「ウ」といたしましては、粟生線全線開業65周年記念事業の実施の検討ということで挙げさせていただいております。粟生線につきましては、本年が全線開業65周年、いわば一つの節目を迎えますことから、神戸電鉄さんとも協議を行いながらですけれども、そうした記念事業の実施を検討していく中で、粟生線の存在を沿線内外へ広く発信していく。結果として、粟生線の更なる利用を促進してまいりたい。主にそういったことを重点事業ということで整理いたしましたところです。

項目の3つ目、事業計画につきましては、続きますA3資料の三枚物になりますけれども、そちらで御説明させていただきたいと思っております。

平成29年度の形成計画に係る事業計画（案）ということで整理いたしました。表のうち、一番右端が平成29年度の事業計画ということで整理しております。基本的には、こちらに掲げてある内容については、これからスタートして取り組んでいくところでございますが、主な重点事業につきまして、抜粋して説明いたします。

まず方針1、①鉄道とバスの連携強化という部分の事業項目に、①鉄道とバスの広域時刻表の作成ということで取組内容を掲げております。書いている文字どおりですけれども、さきほど申し上げましたように、今年度、国の補助も活用する中で広域時刻表を作成してまいりたいと考えているところです。

それから、方針1の③でございます。鉄道施設の更新・改良による安全性の確保・輸送サービスの向上というところで、ゴシック体の文字が書いてありますけれども、一番右側、新型6500系車両2編成の新造でございます。新型車両の更新への支援ということで、平成29年度については2編成の更新を、沿線市、県としても支援してまいりたいと考えているところです。

以下、項目を掲げておりますが、2ページ目をお願いいたしたいと思っております。2ページ目の方針3の①日常利用に対するモビリティ・マネジメントの実施でございます。こちらにつきましては、住民に対する地域公共交通利用への協力

要請といった形で、利用増加に向けた多様な主体との意見交換会等の開催ということで挙げております。併せて、各種学校あるいは自治会等への出前講座の開催につきましても継続的に行ってまいりたいと考えています。冒頭にも申し上げましたとおり、計画ができた最初の年度、スタートラインですので、これまで以上に力を入れてこういった取組を推進してまいりたいと考えているところでございます。

それから、そのページの一番下になりますけれども、沿線外への地域情報等の発信というところで、さきほども申し上げましたとおり、粟生線全線開業65周年事業の検討・実施ということで協議を進めてまいりたいと考えているところです。

それから、A3資料の3ページになりますけれども、方針3の④です。企画乗車券等の販売による公共交通の利用促進という中の一番下側に書いております対象者等を限定した企画乗車券の発行という事業項目の中の、沿線市のふるさと納税を活用した利用促進策の検討ということで、これにつきましても前回の協議会の中で委員の皆様から御意見をいただきまして、一部、神戸電鉄さんとも、事業の検討には着手しているところです。これにつきましては、ふるさと納税の返礼品という問題が出てくるんですけれども、国からの通知なども踏まえまして、ふるさと納税の担当部局とも十分に調整を図りながら、ふるさと納税を活用した利用促進策に取り組むことができないかにつきまして、引き続き、検討を加えてまいりたいと考えているところでございます。

それから、議事が関連しますので、続きまして、資料-2をお願いいたします。

議事2号といたしまして、平成29年度の協議会の歳入・歳出予算（案）についてでございます。

上側が歳入、下側が歳出ということで、左側が平成29年度の予算額、参照していただきやすいように、その右側には平成28年度の予算額を併記いたしております。

まず歳入につきましてですが、まず1つ目の負担金につきましては、昨年度と同様に、神戸市、三木市、小野市、そして神戸電鉄の4者におきます負担金、合わせて1,600万円を計上しているところです。

科目の2、補助金といたしましては、62万3,000円を見込んでおります。これにつきましては、さきほども申し上げましたとおり、乗継時刻表等の作成におきまして、国庫補助金の内示を受けている状況でございますので、こちらの金額を見込ませていただいているというところです。

それから、3の繰越金、4の諸収入につきましては、昨年度に引き続きまして、予算の科目存置ということで最小単位の予算を存置させていただいております。

続きまして、その下の歳出についてでございます。

まず1つ目の運営費におきましては、こちらも昨年度と同様に40万円を見込んでおりまして、協議会開催経費等の支出内容となっております。

それから、2の事業費といたしましては、平成29年度には1,622万3,000円を見込ませていただき、さきほど御説明したような取組事業、粟生線の利用促進策を展開してまいりたいと考えております。

3番の返還金、4番の予備費につきましては、昨年度と同様に科目存置という形で予算を置かせていただきまして、歳入・歳出1,662万5,000円ということで収支の均衡を図らせていただいたところでございます。

以上で、資料-1、資料-2に基づきまして、協議会の取組方針並びに歳入・歳出予算の御説明を終わります。よろしくお願いたします。

(副会長)

ありがとうございました。

それでは、議事1号「平成29年度の協議会の取組方針及び重点事業(案)」について、議事2号「平成29年度の協議会の歳入・歳出予算(案)」について、何か御意見はございませんか。

どうぞ。

(〇〇委員)

今の事業計画(案)の中の一番最後の方針3の沿線市のふるさと納税を活用したうんぬんというところで、何か大変な説明に聞こえたんですが、たしかこれは神戸新聞にも答弁事項として出ていたように記憶しております。実際に今、どのような状況になっておりますでしょうか。それを教えていただきたいと思っております。

(事務局)

こちらにつきましては、いわゆる乗り放題カード、プリペイドカードになるんですけれども、そちらをふるさと納税の返礼品という形で用いることができないか、神戸電鉄さんと調整を続けさせていただいているところでございます。

ただ、国の通知なども十分に確認する必要があるので、例えばそういったプリペイドカードにつきましては、換金が可能なものが返礼品としてふさわしいのかどうか、あるいはそういったことを十分に今後調整していかなければいけません。それと、返礼品としてお返しする金額などにつきましても、最終的に今、確認を行っているといった状況でございます。

(〇〇委員)

そんなに時間がかかるものですか。

(事務局)

すみません。実は4月1日付けで総務大臣から通達がございました。その中で、「ふるさと納税に係る返礼品の送付等について」ということで、これはふさわしくないという事例を挙げて、4月1日付けで文書が来ています。実は3月中からそういったものについては神戸電鉄さんとも御相談はさせていただいていたところですが、いきなりこれが来たもので、我々としては、市の担当部局を通じまして、例えば神戸電鉄の利用促進という別の大きな目的があるんだから、その部分についてはどうお考えですか、ふさわしくないのでしょうかという問合せをしておりますので、もうしばらくお時間をいただけたらと考えております。

(〇〇委員)

最終的に、結果的には神戸電鉄さんの利益といいますか、売上げに関わってくる場所かもしれませんが、今、現実にはこうやって粟生線をどうやって残していこうかうんぬんの中から出てきた案の一つでございますし、今、政府がおっしゃっていますふるさと創生にもつながっていく大事な案でしょうから、さきほど金券うんぬんとおっしゃっていましたが、それとはまたちょっとカテゴリーが違うということで、ぜひ神戸市なり、三木市なり、小野市なり、国へ陳情なりしていただいて、しかるべき付度をしていただくように、ぜひお願いしたいと思っております。

それから、もう1点、非常に気になりましたが、方針1の③の①鉄道施設の更新・改良による安全で安定した輸送サービスの確保ということで、新型6500系車両2編成の新造に対する支援というんですか、補助というんですか、出ておりますけれども、別段6500系でなくても、昔の電車でも安全ですよ。

(〇〇委員)

安全です。ただ、造って40年を超える古い電車が結構ありまして、そういう電車はやっぱり足回りが弱くなっていて、故障が発生しております。そういうことからしますと、新しい車両に替えていく必要がございます、これはやらせていただきたいと思っております。

(〇〇委員)

今、なぜそのような質問をしたかと申しますと、この前、粟生線のダイヤが改正になりまして、いよいよ沿線神戸市の皆さんがたも昼間のダイヤが減りまして、不便な状況になっておりました。これは駅の切符売り場のところに置いてある時刻表ですけれども、昔から比べたら随分小さくなったと感じております。ダイヤを削減することによって、実際にどれくらい神戸電鉄さんは損せずに済むんですかということを前回の協議会でお聞きしましたら、数千万円と部長からお返事があったかと思っております。数千万円の経費削減のために沿線住民を敵に回されるんですかという非常に失礼なことを申し上げたわけですが、数千万円でダイヤがこれだけ減るのであれば、逆に数千万円を補助すれば、元のダイヤに戻していただけるという、荒っぽい計算ですけれども、そういうのが成り立つんじゃないかと思ひまして、数千万円を補助して、元のダイヤに戻していただけるのであれば、この車両の補助よりもダイヤに対して補助できないものかということ、一度この協議会で検討していただけないだろうか。電車を新品にするのに補助するよりも、元のダイヤに戻していただく。その数千万円が倍の1億数千万円になれば、もっと粟生から、小野から1時間に数本走っていた便利なダイヤに戻していただけるのであれば、我々がいうんですか、行政が車両に補助を助成するよりも、ダイヤに助成してもらえないことはできないかということ、どこかで取り上げていただけないかなと。それは質問というんですか、提案でお願いいたします。

(事務局)

今いただきました御意見については、一度、例えば三木市だけ、あるいは神戸市さんも、あるいは小野市さんということではだめだと思いますので、全ての3市、やはり同じ考え方のもとにそのあたりをやっていく必要があります。それは自治体としてどう考えるかというところは、兵庫県さんを含めまして、自治体の中で十分精査させていただき、例えば協議会の中でそれを取り上げていくのかについても、そこはちょっと行政でやらせていただけたらと考えております。

(副会長)

ちょっとただいまの質問に追加で答弁させていただきますが、今、〇〇委員の言われている車両の購入、いわゆる安全性を確保するために車両を更新していくことにつきましては、国庫補助事業を受けながら展開していく事業でございまして、それと6,500万円を補助したら運行の便数が確保できるという話はちょっと別の話ですので、それはそれとして検討するということで、切り分けてお願いしたいと思います。

(〇〇委員)

副市長に無茶を言う気は全くないんです。実際に神戸電鉄を利用している人たちの思いからすれば、電車は古くてもいいから、単純に1時間に数本走っていただいていたのが非常に便利だという、あれを何とか取り戻せないかと。でも、実際は商売でしょうから、合わないものは合わないと神戸電鉄さんがお考えになるのであれば、これはやっぱりこの協議会の話だと。私はこの1年間参加させていただいてつくづく思います、これは政治の問題です。ですから、あなたがたがもうちょっとしっかりと相談していただいて、これはこれでやっぱり補助してでもいいから、沿線のために神戸電鉄さんには走ってもらうという方向にいかない限り、答えは出ないだろうと。今日は〇〇副市長がお越しでございまして、御賢明な行政の皆さんがたで検討していただいて、走れば、神戸電鉄さんもそれはそれで潤うわけですから、分けて考えるというのであれば、それで結構でございますので、必ず御検討のほどお願いします。

(副会長)

加古川線の電化事業の時も、この議論がいろいろあったんです。福知山線で

はやっぱり人が多く乗ったら、電車は走ります、多く走らせますというJRの回答がありました。加古川線でも1時間に1本しか電車がいない。今、昼間は1時間半に1本しか走っていない区域もあるんですけども、それをいろいろ議論したときに、やはり乗客が乗って採算性が向上すれば、電車はいくらでも走らせますというのが交通事業者の考え方です。やはりそこはそういう方向ができるような取組をしながら、今、委員さんが言われたことは課題として行政も検討はさせていただきますけれども、なかなか大きな問題、クリアすべきところもあるということで、検討課題としてお受けはいたしておきます。

(〇〇委員)

〇〇委員、検討部会でも御議論、御提案をいろいろしていただいて、ありがとうございます。全国の鉄道、更にはバスについても同じような形で、地域を支えるために公共交通は要るんですけども、なかなか料金収入だけでは全部カバーできないという状況になっております。さりとて、料金収入をカバーするだけのお金があちこちにあるかということ、そういうわけでもないので、難しいお話だと思うんですけども、御提案があるので、そういう検討はされていると思います。お金をもって維持することの効果は、やっぱりもう少し市民のかたがたに分かりやすい形で示すことを今まで以上に考える必要があるのかと思います。要するに、公共交通があることによって、市民生活、それから医療から福祉から、そういったものを含めて、いろいろな幅広い効果があるので、そういうものを通じて捉えてはどうですかといった提案もされていて、それに対するアドバイスもされていますので、ぜひともそんなことも少し試みられて、その結果をこういう会議に出していただいて、なかなかお金がかかって、もうちょっと市民のかたがたに協力要請をシェアできるんじゃないかという議論が今後できればいいかと思います。

(副会長)

ありがとうございました。

ほかに何かございませんか。

ないようでしたら、議事1号、2号について、この場で御承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(副会長)

ありがとうございます。「異議なし」の声がありましたので、承認させていただきます。

それでは、本日の議事は全て終了いたしました。

4 その他

協議会の取組状況について

(副会長)

4番の「その他」でございます。協議会の取組状況についてということでお願いいたします。

(事務局)

事務局を担当しております三木市交通政策課の〇〇でございます。座って説明させていただきます。

そうしましたら、その他事項としまして、協議会の取組状況について説明させていただきます。

資料としましては、右肩に資料-3と書かれておりますA4一枚物の資料と、パンフレットになるんですけれども、カラー刷りの「スマホで山田錦の郷めぐりスタンプラリー」を使って説明させていただきます。

まず、A4の資料-3と書かれた資料ですけれども、神戸電鉄粟生線活性化協議会では、日本を代表する酒米「山田錦」を育む粟生線沿線「山田錦の郷」を広く沿線内外にPRするとともに、利用者数の減少が続く粟生線の利用促進及び沿線の活性化を目的としまして、今年3月11日に、「＝山田錦の銘酒で乾杯！＝貸切列車&貸切バスで『山田錦まつり』へGO！！」を開催しました。これは貸切列車と貸切バスで、同じ日に三木市内で開催されました「山田錦まつり」会場へ97名の参加者を送客いたしました。当日、貸切列車内では、人気DJでありますターザン山下氏が演出する1970年から80年代の昭和歌謡と、日本一の酒米「山田錦」の銘酒や特製おつまみをお楽しみいただきました。

また、3月11日から5月31日までの期間におきましては、粟生線の駅周

辺にある酒米「山田錦」にちなんだスポットをラリーポイントとします、スマートフォンなどの携帯端末からアクセスできる「スタンプラリー」回遊システムで、「山田錦の郷めぐり」をより便利に、手軽に楽しんでいただける「スマホで山田錦の郷めぐりスタンプラリー」を開催しております。

この件につきましては、3月12日の神戸新聞朝刊に、「山田錦まつり」会場へ送客しましたお酒電車、「酒処やました」の記事が掲載されております。また、3月24日の神戸新聞の朝刊には、「スタンプラリー」の記事が掲載されております。また、駅もしくは沿線の公共施設におきまして、別添のチラシもしくはポスターを掲出しておりますので、また御利用ください。

以上でございます。

(副会長)

ありがとうございました。

それでは、協議会の取組状況等について、何か御意見はございませんか。

どうぞ。

(〇〇委員)

すみません、たびたび。この「山田錦」うんぬんは非常に興味がありまして、神戸電鉄さんに特別仕立ての電車をお願いされたんですか。

(事務局)

はい、そうです。団体貸切輸送です。

(〇〇委員)

それは、どこからどこまで。

(事務局)

有馬線の谷上駅から鈴蘭台駅でスイッチバックしまして、粟生線の志染駅まで片道運行しております。

(〇〇委員)

初めて私がこの協議会に出席させていただきました時に、個人的な意見として、神戸電鉄は日本の東西を結ぶ、国家の安全保障上も何かあった時に物資と人を運ぶための大事な鉄道でありますので、これは何が何でも残していかなきゃいけないという個人的な思いを申し上げたわけでございます。実は今年の3月、井戸知事が座長をなさっております関西広域連合でも、その議事の中で、

兵庫県の立場として、災害が起こった時に、全国的あるいは世界的に支援して
いかなきゃいけない地域としてやっていかなきゃいけない、その中には鉄道網
が大切だという協議がなされております。正に我が意を得たりといたしますか、
私は前にも、一度、三田から粟生までの直通電車を走らせられないものかと申
し上げておりました。今も谷上から三木市まで引っ張ることが可能であるので
したら、今日は座長が三木市長ではございませんので、ぜひ〇〇部長から市長
にもお願いしていただきたいんですが、三木には「金物まつり」といまして、
2日間で十数万人、全国からも多く来られる金物をメインとしたおまつりがご
ざいます。神戸電鉄を利用して来られるかたもいらっしゃるんですが、三田か
ら折り返しを考えれば、志染なり、あるいは近くの三木なり、どこかの駅まで
2日間、午前と午後、往復の直通電車をぜひ試してみただけないでしょ
うか。それは将来の三田・粟生にもつながる意味でも非常に価値あることでは
うし、また大阪を含めまして、福知山線を御利用の方が、三田から三木へ神戸
電鉄を使えば非常に早く着くことが可能だということを、もちろん新幹線で来
られるかたのためには谷上にも止まっていたきたいですし、有馬で止まって
いただいてもいいと思いますが、後はノンストップで三木まで来られるような、
そういう大きいことを、大したことないと思うんですけれども、神戸電鉄さん
さえ御協力いただけるのであれば、それは三木にとっても非常にプラスになる
と思いますし、ぜひ〇〇部長から市へ諮っていただけませんかでしょうか。よろ
しくお願ひします。

(事務局)

まず粟生線活性化協議会の取組として、実は「金物まつり」については、1
日フリーパス券という形で、「金物まつり」とコラボした企画乗車券の発売も
やっております。今、〇〇委員がおっしゃっていたことにつきましては、協議
会でやっていただくのも一つでしょうし、ちょっと規模が大きすぎると思いま
すので、あるいは三木市としてどう考えていくのかというところにつきましては、
私から三木市長に伝えておきます。ありがとうございます。

(副会長)

ありがとうございました。

全体を通しまして、何か御意見はございませんか。

市民委員のかた、何か。

(〇〇委員)

ちょっと違うかもしれないけれども、この前、南海電鉄の「天空」に乗る機会がありまして、そのパンフレットをちょっと読んだんですけれども、神戸電鉄さんも「% (パーミル) 会」のメンバーでありまして、そのパンフレットに、 $R = 100$ 、それから 50% (パーミル) と誇らしげに書いてあるんです。この鉄道はこういう電車です、全国でも珍しいトップクラスのカーブ、勾配を持っていると。そういうのを見に、お客さんが乗っておられるわけです。勾配標識、それからカーブ標識もここにありますが、見てください、そこに $R = 100$ と書いてあります、これは勾配を表す標識ですと。そういうのを大々的にPRし、パンフレットに書いてあります。僕も最初に言ったんですけれども、神鉄も同じく、それと同じような路線がありますので、それをPRしてほしい。それを一番感じました。それで、鉄道を全く知らないかたでも、これがこんな大きいカーブだ、これがこんな勾配だ、こんなところをよく登ると。本当にそれで有名になったと。車両自体は、古い車両をちょっと改造して、色を塗り替えて、中のシートを入れ替えて、それだけのものですが、あれだけ有名で、土日はいっぱいという状態です。

それともう一つ、新車両ですか、6500系、それにちょっと話題性のあることができないかと。クロスシートならクロスシート、セミクロスでもいいです。真ん中だけでもクロスにするとか、そういうちょっと話題性のあるものを、車両を新しくする場合に取り入れてもらえないかと。それだけでも結局、話題性が出ると。今、鉄道の番組もテレビでやっていますけれども、やっぱり、こういう目新しい車両があります、ぜひ乗ってください、そういうことが多いです。神鉄もそういう車両ができないかなと。

それと、通勤・通学のラッシュ時と、それから昼の閑散期、完全にそれを分けて考えてほしい。閑散期には、いわゆる観光路線の考え方に変えて、貸切電車とか、そういう考え方でいったらどうかと。ぜひ、そういう車両について、ちょっと目新しい、話題性のあるものにしてもらったらどうかと思います。

以上です。

(〇〇委員)

貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。今回、こういう形で網形成計画がまとまりまして、事業計画もこういう形でやりますけれども、やっぱりこれを実りあるものにしていくためには、そういった御意見をいただいて、それを形にしていくことが非常に大事だと思っております。新型車両は、確かに投資するのは非常に大変ですけれども、やっぱり新しい車両が来ますと、皆さん、今日はラッキーだという感じで乗っていただけるのも事実でございます。やっぱりそういった明るい感じを、こういう厳しい話をしていく中でもやっていくことが大事だと思っております。

まだちょっと具体的に決まっていないので、申し上げられないんですけれども、さきほどの重点方針の中で65周年事業を考えるということで、こういった中では、例えば活性化キャラクターの「しんちゃん」、「てつくん」であるとか、この車両をもうちょっと前面に押し出したような話であるとかということを考えていきたいと、正に思っているところでございます。

冒頭にありました「% (パーミル) 会」の話ですが、鉄道ファンの方はよく御存じですけれども、当社と同じように、山岳鉄道といわれるジャンルの鉄道が全国で組みまして、そういったことをPRしていこうと。関東でいうと、箱根登山鉄道さんとか、富士急さんとかがメンバーですけれども、そういったこともやはり当社線の特徴でございますので、PRしていきたいと思っております。

それと、御意見については以上ですけれども、ちょっと私から何点か。

お手元にパンフレットを御用意させていただいております。なかなか神鉄も厳しい中でサービス改善が進まないんですけれども、徐々にはやっていますというところをちょっとPRさせていただきたいと思っております。

まず4月15日、今度の土曜日からですけれども、当社でもICOCAを発売いたします。これまでICOCAを利用することはできたんですけれども、当社でICOCAを発売していなかったということでございますが、4月15日からJRさんとお話が整いまして、発売するようになりました。これに伴って、大きな話ですけれども、ICOCAでも従来から発売していましたPiTaPaでも、連絡定期券、ICカードのまま定期券を、2枚持ちじゃなくて1

枚で使っていただけるようになります。しかも、神鉄線の特徴であります学期定期、学生さんは1か月、3か月、6か月という通常の定期ではなくて、1学期、2学期、3学期という形での定期を発売させていただいています。これもこのICカードのように発売させていただくと。ICカードは磁気の定期と違いまして、紛失したら、磁気の定期はお金が無駄になっちゃうんですけども、ICカードはデータセンターに記録が残りますので、残った金額も戻ってくるというところもあります。使い勝手がよくなるとともに、そういう安心面でも向上しますので、ぜひ皆さんに使っていただければと思います。それに伴いまして、JR西日本、神戸市営地下鉄、阪急、阪神、山陽に向けて、そういう連絡定期券の発売にもなりますので、通勤で使われるかた、通学で使われるかたは、これを御利用いただければと思います。

それと、これを周知することで、関東では8割以上がICカードを使っているんですけども、関西はなかなかPiTaPaが主流、いわゆるクレジットの与信がないと使えないことで、ICカードはなかなか普及していなかったんです。しかし、ICOCAはチャージするだけですので、そういう意味では気楽に持っていただける。これを普及させていきたいところもありまして、神鉄の中で何かできないかということで、これはちょっと神戸市内だけになっちゃうんですけども、神鉄がやっていますセブンイレブン、このお店でICOCAを買われたかたに引換券を渡しますので、ICOCAとかPiTaPaを新しく買われたかたが引換券を持ってセブンイレブンに行くと、セブンイレブンの商品を買っていただきますと、コーラであったりコーヒーであったりもらえるというキャンペーンもやって、これを普及させていきたいと思っていますので、こういったことも地道にやっていますことで御紹介させていただきました。

それと、全部は御紹介いたしませんけれども、基本的に神鉄はなかなか自社だけでいろんなことをやるのは厳しいので、どこかとコラボして、いろんなことをやらせていただいています。その最たるものが、この計画にも載っているハイキングですけども、このハイキングの実施回数が、近隣の鉄道会社の中では群を抜いて多いことです。この一つ一つを見ていただきますと、例えば4月1日は「こうべ健康ウォーク」と書いていますけれども、これは神戸市の北

区役所さんと共催させていただいている話でございますし、3つ目には、「おの恋ハイキング」ということで、これは小野市さんと共催させていただいているものでございます。下にいきまして、4月15日、7番目、「加西ハイキング」ということで、これは加西市さんと共同でやらせていただいております。8番目は、「みっきいハイキング」ということで、これは三木市さんと共同。そういうことで、いろんな所と組んで、いろいろなこういう催しをやっていると。要するに、地域と一緒に外出機会をつくって、地域を盛り上げていこうということで、このパンフレット、それぞれがそういうことのご思想に基づいてやっております。運ぶだけの神鉄のイメージがあるかと思いますが、私どもはやっぱり乗っていただこうとしますと、移動の需要を創り出さないといけないということであれば、町とともにいろんなことをやっていく、まちづくりと一緒に活性化を図っていくことが重要と考えてやっておりますので、今後もしろんな御意見を賜りながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

(副会長)

ありがとうございました。

ちょっと補足させていただきますけれども、この間の神鉄ハイキングですが、桜づつみがありまして、私は粟生駅のすぐ横に住んでいるのですが、神鉄ハイキングで歩かれているかたにちょっと聞きました。どこから来られていますかと聞いたら、京都のかたが1人、大阪からは4人ほど来られていまして、桜づつみの集計をしましたら、800人の中で県外は十数名だったんですが、市外の県内は250名のかたが来られていまして。神鉄ハイキングのかたが何人おられたかという確認まではできておりませんが、結構、家の横をたくさんのかたが歩いて、桜づつみまで行かれています。このハイキング、いろんなところでいっぱいやられておりますけれども、今、ハイカーが非常に増えていまして、これはどんどん拡充して行っていただきたいという思いはございます。余計なことを言いました。

ほかに質問等はございませんか。

どうぞ。

(〇〇委員)

神戸市の〇〇でございます。

本日の粟生線の形成計画とも関連いたしますので、神戸市の取組につきまして御報告させていただきます。

お手元にパンフレット「神戸市地域公共交通網形成計画（概要版）」をお配りさせていただいているかと思えますけれども、こちらをちょっと御覧いただけますでしょうか。この形成計画につきましては、粟生線の形成計画とほぼ並行して、神戸市でも公共交通網の形成計画を取りまとめようということで、当然、粟生線のことも含めてまとめたものでございます。

1 ページを御覧いただけますでしょうか。

中ほどに公共交通ネットワークの将来像ということで、図面を掲げておりますけれども、その中でほぼ中央から左上に向かって伸びております紺色の太い線が粟生線でございます。将来像としましては、中ほどに掲げてございますけれども、粟生線の形成計画とも整合を図りながら作ったということで、鉄道が基幹、バスが補完（フィーダー）の役割を受けようとして、地域に密着したバス・タクシーによるコミュニティ交通の充実を図ることで、こういうものを将来像として掲げているということでございます。

2 ページを御覧いただけますでしょうか。

2 ページでは、現状・課題、基本方針・目標、公共交通施策ということで掲げてございますけれども、粟生線の関係からいいますと、課題につきましては、一番上のいわゆる郊外部の鉄道の維持を掲げてございます。

それを受けまして、基本方針・目標としまして、まちづくりの方針を踏まえた公共交通ネットワークの維持・充実ということで、公共交通分担率を上げていこうということで、現状は31%でございますけれども、10年後の平成37年には35%まで上げていきたいと。

そのための施策、一番右側に施策①から⑥とございますけれども、粟生線につきましては、施策②の西北神地域での基幹公共交通の維持ということで施策展開を図っていくと。

あと、施策⑥につきましては、これは施策①から⑤の全てに共通する施策ということで、公共交通の利便性の向上でありますとか利用促進に関する事柄で

すので、これも共通して粟生線に関係することでございます。

それらを具体的にまとめたものが、6ページ、7ページにございまして、左上に図面がございますけれども、オレンジ色の部分が粟生線ということで、一応、西北神地域での基幹交通の維持というくくり方をしておりますけれども、取組方針の①としまして、自動車から公共交通への利用転換を進める。それから鉄道とバスの効果的な役割分担のもと、基幹公共交通である鉄道を中心とした公共交通ネットワークを維持するというので、具体的な取組内容として、鉄道とバス路線との連携、それから鉄道と連動したバス運行ダイヤの設定、それからパークアンドライド等の推進、駅周辺のまちづくり、それから企画乗車券等による利用促進、それから公共交通への利用転換の意識啓発等、それから沿線地域における観光資源の活用、それから基幹公共交通の維持・充実等を図るための施策の検討。

あと、取組方針の②といたしまして、基幹公共交通の安全で安定した輸送を確保するとともに、輸送サービスの向上を図るということで、施設の更新・改良による安全性の向上・耐震化の推進、それから輸送サービスの改善、効率的な運行というような取組を進めまして、神戸電鉄粟生線を含む基幹公共交通の充実を図ってまいりたいと。

あと、利用促進に関する施策として、12ページ、13ページも併せて御覧いただけますでしょうか。この中にも具体的に神戸電鉄関係でいいますと、中ほどに湊川駅の駅案内表示の多言語化でありますとか、一番下の写真も、これはたしか神戸電鉄さんの写真であったと思いますけれども、車両の更新でありますとか、レール・道床の更新というようなものも取り組んでまいりたいということで、基本的にさきほど御説明がありました粟生線の形成計画の内容と整合を図ったものでございます。また、この協議会の活動と併せまして、神戸市でもこの計画に沿って粟生線の活性化・維持に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

すみません、以上です。

(副会長)

ありがとうございました。

5 閉 会

(副会長)

ほかに御質問はございませんか。

ないようでしたら、本日の会議次第の内容は全て終了いたしましたので、事務局にお返しいたします。

(事務局)

〇〇副会長、会議の進行、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして全ての議事事項等が終了いたしました。これをもちまして、第31回神戸電鉄粟生線活性化協議会を閉会いたします。

本日は早朝からお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。お帰りにつきましては、十分お気を付けてお帰りいただきたいと思います。どうもありがとうございました。